



仙高の風

令和2年5月27日発行 第1号

学年の先生方が心を込めて“ウェルカムメッセージ”



◇臨時休業が継続される中、仙台高校は5月14日～16日の三日間を各学年の臨時登校日とし、放送等で生徒諸君に講話を行いました。(以下は一部抜粋です。)

校長 町田尚彦◆やっと皆さんとお会いできました。たいへん感慨深く、とても嬉しいです。先生方は皆、生徒諸君に会いたがっていました。教室を掃除したり、昇降口にメッセージを書いたり、花壇に花を咲かせて生徒を迎えようと多くの先生方で手入れをしたり、事務室や技師の先生方まで全職員で皆さんの登校を心待ちにしていました。◆ウイルスの恐ろしいところは、単純な連帯を不可能にしてしまうことです。災厄が起きているのだから、人々が心を力を合わせなくては、と判っていないながらも、ひとりで悩みに向き合ってしまう。それを防ごうと、様々な人々それはスポーツ選手であったり、アーティストであったり、時には身近な人であったりしますが、連帯へのアクションを行っているニュースを見ると、感激して泣いたりもします。しかしその直後、別のニュースで、分断、対立、批判が報じられ、再び望みを絶たれた気持ちに引き戻される。そこにはウイルスという事実ばかりがあり、恐怖に支配されてしまう自分がいます。恐怖は人間の自然な感情です。しかしその恐怖が、排除や批判、否定などの攻撃を起こさせています。それに対抗する手段はというと、なかなか思いつきません。でも私は「誠実さ」を大切にしようと思っています。何が答えかわからない中で、相手を思いやる気持ちを示せるように心掛けています。うまくいかないこともたくさんありますが、誠実であればすれ違った対話の糸口はきっと見つかると思っています。◆この臨時登校期間は、6月から全学年が揃って登校できるための、いわば慣らし期間です。一日も早く、勉強や部活動に打ち込むため、仙台高校だけでなく、全県、全国、全世界の人々の新しい生活様式の実践が必要です。全員の協力をお願いします。青年のまっすぐな心が、私たち大人をどんなにか励ましていることでしょうか。未来を託す君たちに、愛のある世界を見せられるよう、私たちも頑張る参ります。今年のインターハイなど各種大会の中止は、特に3年生にとって悲しいこととなりました。現在、代替の県大会などを各競技で検討していますが、先行きは不透明です。たとえ地区予選であっても、選手として出場できなくとも、その場に立ちたかった。無念でならないことでしょうか。しかし、試合やコンクールよりも、毎日の活動時間のほうが圧倒的に多い。◆私たちの財産は、泣いたり笑ったりしながら懸命に過ごした普通の練習などの日々こそあることを、仙高生は知っています。ぜひ自分に自信を持ち、自らを誇って欲しいと思います。これから始まる日々が皆さんの生涯にわたる日々を支えるであろう、かけがえのない日々になることを信じています。



『登校にあたっての諸注意』保健部長 佐藤千秋教諭

◆本来なら皆さんの元気な顔を体育館で見ながらお話ししたいところですが、今年度は感染防止の観点から、皆さんと集まることが出来ないことがとても残念です。コロナウイルス感染防止のために学校が休校となり、皆さんは、長い時間を家庭で過ごしたり、やりたいことを我慢したりするなど、よく頑張りました。今日、皆さんがこうして多くの友達や先生方と再会出来たことを、本当に嬉しく思います。このような状況のときには、眠れない、イライラする、集中できない、落ち着かないなど、自分の心や身体に様々な変化が出てくるかもしれません。皆さんはどうでしょうか。これは、普段とは違う生活の中で起きる、とても自然なことです。どうか心配しないで、そのようなときは、先生や家族などに相談してください。我慢しないでください。◆5月4日に厚生労働省から「新しい生活様式」の提示がありました。この新しい生活様式を踏まえて、これから始まる学校生活において、皆さん一人一人にお願いしたいことがあります。これからその説明をしますので、黄色の用紙の「登校にあたっての諸注意」を見てください。又、大事なところはメモをとってください。

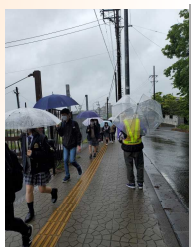


『応援メッセージ With コロナ時代の君たちへ』生徒指導部長 佐藤政宏教諭

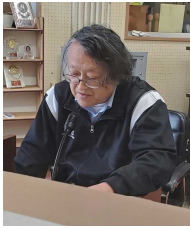
◆コロナウイルスは僕たちの肉体をむしばむことはおろか、精神をも侵していきます。不安は序章に過ぎず、やがては他者への攻撃に向かい、そして差別や偏見へと変容していきます。さらに、僕たち自身の誇りや人間性をも奪っていくのです。だからこそ今、僕たちに求められるものが「やさしさ」です。目の前にいる人々にやさしさを向けて欲しいのです。例えば、君たちの家庭でどんな役割を担えるのか考えてみよう。弟や妹の面倒をみよう。家族のために食事を作ってみるのも良いことです。遠く離れて暮らす祖父母に手紙をしたためてみようでしょうか。◆こんな時代だからこそ、想像力を働かせてみよう。病気になってしまった人を排除するのではなく、どんなに苦しんでいるかに思いを巡らしてみよう。スーパーに子連れで来た親を見たとき、子供を家に残せない事情があったのだらうと、相手を思いやってみよう。閉鎖的な考え方を打破し、危機をチャンスと捉え積極的に生きるのです。日記をつけてみよう。パンデミックは、また起きるかもしれません。困難な状況下で、どう生き抜いたか記録しよう。その誇りと証を子どもたちに、次世代の子どもたちに君たちが語り継ぐのです。

臨時登校日、生徒たちは元気に登校しました。

生徒指導部の先生方が国見駅や途中の通学路に立ち、朝の挨拶と共に感染防止のため、一列歩行や会話を控えながら歩くよう声をかけました。



5月16日(土)、入学説明会を開催しました。長引く臨時休業での様々な不安が解消されて、輝く学校生活を送れるよう皆で力を合わせて頑張りました。「学校生活」について8回説明を繰り返した総務部長の伊藤隆教諭(左)



「臨時登校」教務部長 野田利明教諭 ◆私からは学習についてお話ししたいと思います。4月から授業ができない期間が続いたことを、誰もが不安に感じていると思います。仙台高校でも、すでに文部科学省や郡市長が公表しているように、夏休みの一部にも授業を行ったりして、しっかりと力を身につけていけるように検討しています。具体的には、正式に学校が再開した時にお知らせしたいと思います。幸い、本校でもエアコン工事が始まっています。順調にいけば7月下旬からはエアコンが使えて、普通教室においては快適な環境で授業が行える予定です。◆課題に関してまず大切なのは、学習を中心とした生活のリズムをしっかりと確立することです。そのために、各クラスの時間割通りに課題に取り組んで下さい。通常なら予習や復習を行う夜の時間帯や土曜日曜は、遅れ気味な課題やプラスαの学習に取り組むなどの時間にしましょう。今回手元に届けた課題は、各教科の評価の対象になります。単に期限までに提出したかどうかのチェックだけでなく、どのように取り組んだかも評価します。しっかりと取り組みましょう。来週の登校日からは、授業形式で学習支援がスタートします。◆様々な理由で登校に不安がある人は、担任の先生に相談してください。◆2年生は、学校が始まるとまもなく、3年で受ける授業の科目選択があります。短期間での選択になりますので、この期間、まず、自分の将来の夢を見つめ直すなど、準備をしておきましょう。



第3学年主任 末永光洋教諭 ◆さて、2年前の4月に“ワンライン”冬季オリンピックのスピードスケートの女子団体チームが金メダルを取った話を例に団結することの大切さ、お互いを支え合うことが大きな結果につながるということを話しました。これは昨年のワールドカップラグビーの日本代表チームの活躍、ワンチームの大切さにもつながる話でした。君たちは仙高をリードする存在です。困難が伴う今日であるからこそ、この精神を大事にしてください。昨年はイチロー選手の引退の話題のなかで、高校時代にしかできないこと、17歳の今にしかできないことをしっかりとやっという話をしました。今年には将来の進路に大きな影響を与える大切な一年です。◆2か月遅れましたが高校3年生の始まりです。様々な制約がある中ではありますが時間が止まることはありません。先週

の土曜日、NHK 番組で水泳の池江璃花子選手を特集していました。君たちと同世代、東京オリンピックでは金メダル確実だと言われていた選手がまさかの白血病という病に侵され、懸命の治療に耐えてきました。筋肉の衰えなど別人のような姿。今はたった一回の懸垂運動もできません。退院したとはいえ免疫力は低下していることでしょう。コロナウイルスへ恐怖心や感染のリスクも健康な人の何倍もあることでしょう。そんな彼女が次のオリンピックを目指し、しかもオリンピックで勝つことを目指し、本気で練習を再開していました。さあ君たちも負けてはいられません。◆学校再開後はこれまで以上に君たちを全力でサポートしていきます。来年の3月、みんなでいい顔で卒業式をむかえましょう。

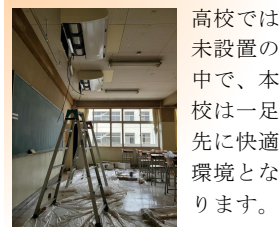


第2学年主任 安田良江教諭 ◆2年生の皆さん、おはようございます。今日みんなの顔を見るまでは、生徒のみんなはどんな雰囲気なのか心配するところもありました。でも、今朝東昇降口に立ってみんなを迎えてみたら元気な挨拶や笑顔もあり少しホッとしました。◆一人一人の意識の持ち方で世の中自体が変わってしまうそんな時代に今私たちは生きているということを強く認識して欲しいです。そして、この現状に無関係ではいられない自分がこれからどうしたらいいのか、前に進むためには何をすればいいのか…よく考えて過ごしていかなければならないと思います。◆新型コロナウイルスに関わることに毎日テレビ等で配信され、うんざりする部分もあるかもしれませんが、それでも私は毎日ニュース等でワクチン開発や薬を作る記事等を見聞きし、少しでもこれからの生活にプラスになるような明るい情報を集めています。それは私自身現状にとどまらず前へ進みたいからです。『前へ』この言葉は2月末の最後の1学年集会や今まで配付してきた学年通信でも何度も皆さんにも言い続けていますよね…。今、本当に強くそう思います。時間は戻らない、待つてはくれない…だからこそ、今できることを細やかな所まで気を配り、先々のイメージを持ちながら過ごそうと思って動いています。皆さんも一緒に『前へ』進んでいきましょう。



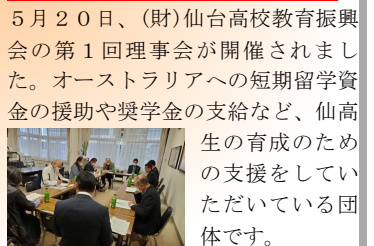
第1学年主任 大嶋智彦教諭 ◆先ほどから高校生活について説明がありましたが、5月20日(水)以降資料を提示しながらより詳しく説明をしていきますので安心して下さい。私から今日は1つだけお話をします。みなさんは保育園もしくは幼稚園から中学校まで同じ地区に居住していた仲間の集団の中で生活をしてきたと思います。しかし高校は違います。周りを見て下さい。今日は新たな出会いの日です。今までの自分を変えるチャンスです。「中学校の時より真面目になった」とか、「性格が社交的になった」など今までの自分をいくらかも変えることができます。ただしそういう時に「イメチェンしているの」などと冷やかして邪魔をする人がいます。私はそのような行為をする人が許せません。共に前を見て志高く進んでいくことができる集団であってほしいと思います。私も町田校長先生も、本校の卒業生です。思いは色々ありますが、これからの生活の中で少しずつお話をしていきたいと思っています。それではこれからよろしくお願い致します。

各教室にエアコンが設置されます。



県内の多くの高校では未設置の中で、本校は一足先に快適環境となります。

「教育振興会理事会」を開催



5月20日、(財)仙台高校教育振興会の第1回理事会が開催されました。オーストラリアへの短期留学資金の援助や奨学金の支給など、仙高生の育成のための支援をしていただいている団体です。



5月14日からの生徒の臨時登校日に合わせ、学年の先生方が東西生徒昇降口のガラスに様々なウェルカムメッセージを描きました。「お帰り～待っていたよ!」と書かれたことばには、臨時休業や学校閉鎖を経験した先生方の気持ちがそのまま表されています。かけ寄り見入る生徒たち

